

●特集

森に棲む魚サクラマスを探して

- ◎サクラマス その生態は？
- ◎調査地、岩尾別川とは？
- ◎サクラマス調査
- ◎調査結果
- ◎調査から見てきたこと
- ◎コラム：『生物相復元に向けて～カワウソの可能性～』

知床で夢を育てませんか！ いのちあふれる森を次の世代へ——

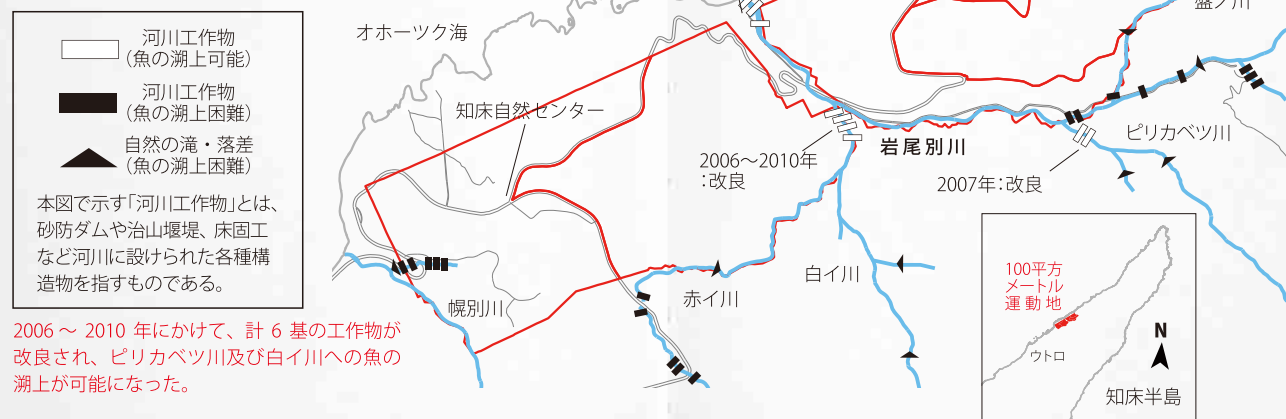
National trust 100㎡ Movement Forest Trust
100平方メートル

運動の
森林
トラスト

◎調査地、岩尾別川とは？

岩尾別川は、知床連山を源とする長さ約 10km の渓流河川です。その流域の全ては、知床国立公園並びに世界遺産地域の中ですが、実は、多くの人の手が入った歴史もあります。例えば、魚の遡上を阻む砂防ダムや、洪水対策のため掘削され直線化している場所はいくつもあります。直線化され流れが速くなっている場所には魚の姿は多くないというのが現場の実感です。

また、かつては川のほとんどもを河畔林が覆っていましたが、洪水など自然の力による流出の他、川沿いを走る道路



の造成や砂防ダムなどの設置に伴う伐採などによって川面を覆う森が消失しました。

岩尾別川からサクラマスが姿を消していった背景にはこのような環境の変化も一因であると考えられています。

●特集

森に棲む魚サクラマスを探して

100平方メートル運動では、知床の開拓跡地に森を復元するだけではなく、かつてここにあった生き物の営みの復元にも取り組んでいます。その一つが、運動地の中を流れる岩尾別川にかつては生息した魚、サクラマスの復元です。

以前は河畔林で覆われていた岩尾別川は現在、特に下流部でその木々が失われてい

る場所が数多くあります。河畔林は、川の中に生息する生き物にとっても重要な役割を果たしています。例えば、枝先から落ちる昆虫は魚のエサとなり、川面を覆う木々は太陽の光を遮り水温を低く保つ効果をもたらします。このように河畔林はサクラマスを含む川の生き物とも深く結びついています。

記録によると、知床半島にはかつてサクラマスが広く生息していましたが、1970年代にはその数を減らし、1990年代になると放流事業を行っている川を除くとほぼ見られなくなっていました。この状況は運動地を流れる岩尾別川も同様でした。そのため、運動の一環として1999年からその復元に向け、地元の漁

業関係者の協力を得て卵の放流を開始しました。以降、2001年までの2年間、そして2008年から現在まで、毎年秋に数万粒の卵の放流を行っています。

その後、2001年から毎年、サクラマスの遡上状況を確認する調査を行っています。今回の特集では、調査の様子をお伝えしながら知床の川と森、そしてそこに棲む魚とのつながりを考えます。

◎サクラマス調査

調査はサクラマスの産卵期の9月初めに実施します。調査は至ってシンプルで、川の中にサクラマスがいるかをひたすら探すというものです。水深が浅い所であれば陸上からサクラマスの魚影を見つけることができますが、それは確実ではありません。

そこで登場するアイテムが、ウェアラブルカメラまたはアクションカメラと呼



ウェーダーを着用します。右手には小型カメラをくくりつけた人丈ほどの棒を持ち、左手にはGPS、その他弁当や飲み物、水中を除く箱メガネなどをザックに詰め込み、出発準備の完了。

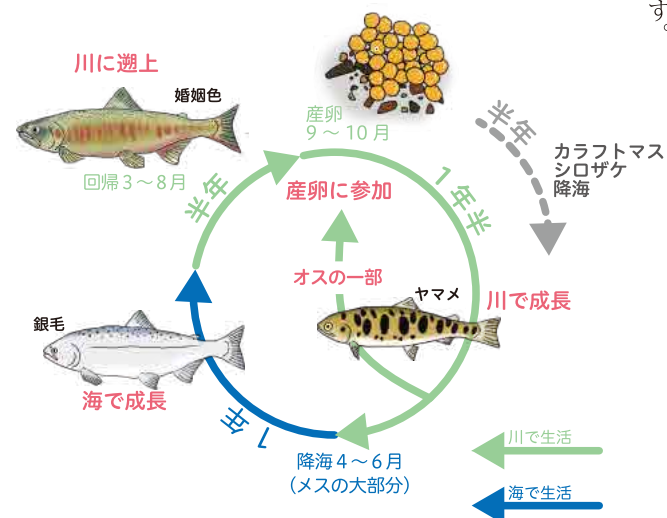


サクラマスが潜んでそうな所を発見！さっそくカメラで撮影。

ばれる動画撮影用の小型カメラです。数年前まではドライスーツを着て潜水し、直接川の中を見て魚を探していましたが、最近はこのカメラを魚のいそうな瀬や淵に入れて撮影し、後でその動画を見てサクラマスの存在を確認する方法を取っています。潜水での探索の方が直接目で確認できるため確実ですが、技術と経験、そして体力が必要です。一方、カメラによる探索は、確実性は劣るものの、機材さえあれば誰でもできるという簡易性、継続して行うことが出来るという利点があります。

もう一つの調査項目として、サクラマスが卵を産んだ跡「産卵床」の有無も記録しています。サクラマスは他のサケの仲間と同じように川底にくぼみを作り、卵を産み付けます。そのため、サクラマス自体の姿を見つけれなくても、産卵床の有無でその年に遡上してきたかどうかを判断することができます。

●サクラマスの生活史



◎サクラマス その生態は？

知床のサクラマスは、8月下旬から9月に川で産卵し、11月頃にはその卵から稚魚が産まれます。稚魚は1年半を川で過ごし、次の春を迎える頃、メスのほぼ全てとオスの一部が海へと下っていきます。この時、海へおらずに川に残るサクラマスは、通称「ヤマメ（ヤマベ）」と呼ばれています（以下、ヤマメ）。なお、北海道で海へ下るサケの仲間として代表的なカラフトマスやシロザケは産まれてから約半年で全ての魚が海へ下りますが、サクラマスは、この2種に比べて川で過ごす期間が長いことが特徴です。

海へ下ったサクラマスは、海の豊富な栄養によって川に残ったヤマメよりずっと大きく成長し、1年後の次の春にはまた産まれた川へと戻ってきます。そして、半年ほどを川で過ごし、夏の終わりには産卵を行い、次の世代を残していきます。

赤い魚影を求めて

ヒグマの存在
に緊張しながら

遂に
サクラマス
の姿を
確認！

この時期のサクラマスの体は、産卵期を迎え銀色から赤みを帯びた色に変わっています。この赤い魚影が陸上からも見えることがあり、深い森の中を流れる川でその姿を見つけた時のドキドキ感、何ともいえず胸に迫るものがあります。一方で、体や尾ビレがボロボロの息絶えたサクラマスを見つけることもあります。

人が自然に介在する責任の重さを感じる瞬間

これはおそらくすでに産卵を終え、その一生を終えた魚の死体です。そんな生と死を間近に感じることができる知床の自然の奥深さを実感するとともに、一方で「復元」という名の元に人が自然に介在する責任の重さを感じる瞬間でもあります。

◎調査結果

調査では、卵の放流から3年後に帰するサクラマスの数と産卵床数をカウントします。なお、自然産卵の卵からふ化したサクラマスも3年後に帰します。

過去16年間の調査の結果、その年に確認されたサクラマスの数は0〜7尾と二桁に届くことはありませんでした。もちろんこの数字がすべての数ではありませんが、放流した数万という卵の数から比較すると少ないといえます。

サクラマスの放流状況と遡上状況調査結果

*初年(春)のみ稚魚も放流
放流年 放流数(卵)

放流年	放流数(卵)	調査年	尾数	産卵床数
1999春	稚魚 5万	2001	5	2
1999秋	3万	2002	0	0
2000	7万	2003	7	9
2001	5万	2004	6	17
2002	—	2005	1	0
2003	—	2006	2	0
2004	—	2007	2	1
2005	—	2008	0	0
2006	—	2009	0	0
2007	—	2010	1	0
2008	15万	2011	5	1
2009	20万	2012	2	1
2010	10万	2013	2	5
2011	20万	2014	3	4
2012	5万	2015	2	1
2013	—	2016	1	0
2014	6.3万			
2015	20万			
2016	12万			

■備考

*2008年より河川工作物の改良完了を見越し放流を再開。

*2014年より調査方法を潜水からカメラ撮影に変更。

◎調査から見てきたこと

放流数に対しサクラマスの回帰が少な
い理由の詳細な検証はこれからですが、そ
れにはいくつかの要因が考えられていま
す。その一つとして、サクラマスの一生を
支えるには川の環境がまだ整っていない
ことが考えられます。

1970年代に岩尾別川からサクラマ
スが姿を消した原因の一つとして、
1960年から80年代にかけて設置され
た十数基の砂防ダムなどの河川工作物の

川の環境が、サクラマスの一生を支えるにはまだ整っていない

存在が挙げられます。工作物
により川が分断され、特にふ
化後1年以上を川で過ごす
サクラマスには少なからず
影響を与えたものと思われ
ます。

その後、2005年の世
界自然遺産登録を契機に河
川工作物の弊害についての
議論が進み、岩尾別川でも
4か所の工作物の改良が行



現在、岩尾別川では、このサクラマス調
査だけではなく、長期的な水
温のモニタリングやオショロ
コマの生息状況調査なども
行っています。また、魚の往来
を妨げる数基の河川工作物の
改良についても検討が進んで
います。

現状を知り、できることを一
つ一つ積み上げていくことが、
サクラマスだけではなく岩尾
別川流域の全ての生き物、そし
てこの知床の自然を次の世代
に引き継ぐための私たちの務
めだと思っています。

『生物相復元に向けて～カワウソの可能性～』



● 海岸線を利用するカワウソ（スコットランドにて撮影）

知床財団と知床博物館は2011～15年までの5年間、国内で絶滅したカワウソを知床に再導入して復元する可能性を検討しました。カワウソが生息するロシアや欧州での現地調査、ロシアで採集した糞や道内の遺跡から出土した骨のDNA解析、漁業被害の可能性、国内外の専門家からの聞き取りなど多面的に検討を行いました。その結果、ロシア極東のカワウソとDNAが類似しているものの、遺伝的に近縁と確認を得るには骨からのDNA解析がさらに必要なこと、また漁業被害の可能性は低いものの、再導入には事前の十分な対策が必要とわかりました。

知床の河川は急峻で多くの工作物があります。つまりカワウソが定着するには規模が小さく、エサも十分ではないようです。そのため、復元を考える上では、海岸を頻繁に利用したり、知床半島から他地域に広がったりする可能性を無視できません。カワウソ復元には、以上のような数多くの課題があります。

しかし、復元の是非に関わらず、知床にカワウソの生息できる環境を取り戻すことは、100平方メートル運動の目指す方向性と同じです。なぜカワウソが姿を消したかを心に留めながら、まずは運動地内を流れる河川周辺の環境回復をめざしていきます。

※生物相復元について

100平方メートル運動では、サクラマスの他に復元対象の候補としてすでに絶滅しているオオカミとカワウソも掲げています。オオカミについては、過去に海外の復元事例の研究などを進めていましたが、カワウソに関しては今回初めて詳しい調査と復元の可能性について検討を行いました。

2017年は、100平方メートル運動にとって一つの節目の年です。1977年の開拓跡地の買取りから40年、1997年からの本格的な森づくり開始から20年目に当たります。この間、知床国有林伐採問題や世界自然遺産登録、高密度に生息するエゾシカとの戦いなど様々な出来事の中、100平方メートル運動は多くの方々に支えられ重要な役割を果たしてきました。

斜里町及び現場を担う知床財団では、これまでの取り組みをまとめるとともに動植物の専門家や地元

新たな20年に向けて

者、運動の支援者の方々と次の20年間の目標や計画づくりを盛り込んだ「第2次中期目標骨子案」の作成を今、進めています。

100平方メートル運動は、かつての森と生き物の営みを取り戻すという100年先を見据えた息の長い取り組みです。そのため大きな目標は変わりませんが、これまでの20年間、試行錯誤を重ね積み上げてきた成果、そして積み残した課題を踏まえて検討を行っています。

詳細は次号の森通信にて皆さまにお伝えさせていただきます。

2018～2037年は 「森・川・人」をテーマに

森

「森林再生」

過去に植栽し成長したアカエゾマツなどの造林地と未だササなどに覆われたままの未立木地にて樹種多様化を目指す「森づくり」を進めます。

川

「生物相復元」

岩尾別川とその周辺に生息する生き物の営みを復元する「川づくり」を進めます。

人

「運動の普及・公開」

運動の成果と取り組みを伝えるため、植生や野生動物に配慮した運動地公開コース「森づくりの道」の運営と情報発信を進めます。

防鹿柵外に中型の苗木20本を試験的に移植



柵外に植えた苗木6本シカに被食



過去最大の月間降雨量を記録
8月降水量 800mm(ウトロアメダス)

サクラマス調査



8月の台風で破損した防鹿柵の補修
(ダイキン工業ボランティア)



アカエゾマツ造林地の現状確認
や枝払い作業



May

5/9-14

5/1

しれとこ森づくりの道オープン

5/20-24

第17回
森づくりの日・春



大型苗の生産のために、苗木21本を床替え移植。

Jun.

6/下旬
7/中旬

Jul.

7/12

斜里小学校4年生の100平方メートル運動授業

7/30-
8/5

第37回
知床自然教室



全国から40名の子どもたちが参加。

Aug.

9/5・12

Sept.

9/29-
30

第1回森林再生専門委員会議

Oct.

10/16

第20回
しれとこ森の集い
(植樹祭)



トドマツ苗木191本を植樹。

Nov.

10/30-
11/4

第20回
森づくり
ワークキャンプ



大型苗木8本を移植。
トドマツ苗木225本山採り移植。

11/20-
21

第2回森林再生専門委員会議

Jan.

2/4,5
2/11,12
2/18,19

Feb.

1/25-
3/20

「冬の森づくりの道」
スノーシュー
歩くスキーコース
オープン



全長約6kmのコースを設置。

2017

岩瀬 晴夫さん

(株)北海道技術コンサルタント 技師長

1950年、北海道留辺蘂町(現北見市)生まれ。現在67歳。北海道内をはじめ全国各地の川づくりの現場で専門家の視点から設計や技術指導を行う。2011年からは岩尾別川の河川環境の多様化に向けた取り組みにも様々なアドバイスをいただいている。



2017年2月、標津サーモン科学館にて取材

岩瀬さんは、各地の川づくりに携わっていますが、そもそも「川」や「川づくり」に関心を持ったきっかけはなんでしたか。

端的に言う入り口は「仕事」です。もともとはコンクリートが専門で下水道や地下鉄のトンネルなどの構造設計をしており、その対象のひとつとして「川」がありました。そんな中、1990年代に入ると行政も含めて世間では「多自然型川づくり」など環境に配慮した河川管理が謳われるようになりました。それまでは護岸を固めてまっすぐにするのが川の管理の主流でしたが、例えば蛇行したり瀬や淵があったりする川の方が望ましいという流れになったのです。

しかし、当時は、その掛け声を実行するための具体的な技術や方法は何もありませんでした。そこで、新たな川づくりに必要な技術や発想を自ら探り、試行錯誤しながら関わり出したというのがきっかけです。後は技術者としての好奇心でしようか。本場に「多自然型川づくり」とやらが技術的、社会的にも可能なものが見届けてみたいとも思っていました。

例えば流路の復元や魚道の設計など川づくりに関わるにあたり、心掛けていることはありますか。

自然のメカニズムにいかにか「似せるか」でしょうか。一口に「川づくり」と言っても、北海道と九州で同じはずはありませんし、同じ地域でも川ごとにそのメカニズムは違ってきます。そのため、まずその川を良く観察する所から始めています。そして、仮説を立て実践する。うま

くない点があればその理由を検証して軌道修正をしていくことを心掛けています。いわゆる「順応的管理」とか、私は「見直し」と呼んでいるのですが、そういったことを現場から学びました。

2011年より岩尾別川の川づくりに関わっていただいています。岩尾別川とはどのような川ですか。

色々な意味で中途半端な川だと思います。いわゆる溪流で、勾配も急、流れも早い川ですが、一方では、劇的に急勾配という訳ではありません。緩急がはっきりしていればそれなりの対応方法も考えられますが、そのどちらでもないという意味で中途半端だと感じます。

また、流域も含めて自然度は高いですが、その割には各所に砂防ダムや護岸工事など人の手が入っているのも中途半端なところですね。

当初より手弁当でお手伝いをしていただきいつも恐縮なのですが、本業の方に差し支えないでしょうか。また、岩尾別川での取り組みの今後の可能性についてお話しください。

これまでこのような勾配の川で川づくりが行われた事例は他になく、岩尾別川での取り組みは成功も失敗も含めて全



●岩尾別川の測量を行う岩瀬氏

新しい知見となっています。その知見を本業の方にもフィードバックしていますので、心配はご無用です。

岩尾別川はとにかく「応答」が早く表れるのが特徴です。例えば大雨が降ればすぐに増水が起こり、川の形が変わっていくようなこともそのひとつです。この数年間でもいくつか組んだ石組みが早々に流出するなど色々な事が起こりました。

このようなメカニズムを持つ川で今後できることは、川の力を利用して魚の隠れ家や産卵場所となるような二股や三股の細流を作ることだと考えています。どの川でもそうですが、地元「いい川を作りたい」という人がいれば、私は技術者として応援していきたいと思っています。

動画で運動 PR

100平方メートル運動の広報のため動画を制作し、100平方メートル運動ホームページと動画サイトYouTubeで公開しています。

「知床の森は、あなたを忘れない。」という新たなキャッチフレーズをのせた動画は、それぞれ1分程の内容です。開拓の歴史と自然復元をテーマにした「歴史編」、運動参加者の想いをメインにとりあげた「名前を残す編」、寄付金5000円で今すぐできることを紹介した「森を残す編」の3つのシリーズが出来上がりました。

なお、動画では、昨年の「森の集い」で撮影した映像も使用しています。ご協力いただいた参加者の皆さま、ありがとうございました。ぜひ一度ご覧ください！

あれから 40 年 トレイル散策、記念講演の開催や植樹も実施！

しれとこ100平方メートル運動40周年を記念するイベントが今年、9月16日に開催されます。当日は運動地トレイル散策、記念講演、交流会の他、翌日には記念植樹も行います。

40周年というこの節目に運動参加者の皆さまや関係者が集まって森での作業を楽しんだり、これまでの想いを語り合ったりする場になるよう準備を進めています。



斜里町役場 環境課 寺屋

「交流を通じて、改めて関係者の貴重な意見を聞く場になれば。ぜひ、皆様のご参加をお待ちしています」

しれとこ 100 で検索！



歴史編



名前を残す編



森を残す編



YouTube
で公開中
ぜひ、
ご覧ください！

しれとこ 100 平方メートル運動 40 周年記念事業

9月16日(土)

9:00～12:00	新設される「森づくりの道」を散策
14:30～16:00	記念講演会
18:00～19:30	交流会

9月17日(日)

10:00～12:00	記念植樹
13:00～15:00	運動地散策（終了後、希望者のみ）

参加申し込みについて

参加をご希望の方は事前のお申し込みが必要です。
申込先: 斜里町役場 環境課 (TEL: 0152-23-3131)
※記念事業は現地集合、現地解散です。旅程は各自で計画の上、手配ください。
※事業内容の詳細につきましては、お申し込み時に役場担当者よりご案内申し上げます。

メッセージのご紹介



ご寄付いただいた皆様からのメッセージの一部をご紹介します。

● 私の結婚（1987年）を記念に参加しています。知床にも家族で何度も行き、名札も見ました。先日孫が誕生しましたので、昔を思い出して寄付を思い立ちました。孫もきつと親とともに知床を訪ねる事でしょう。遠い地より応援しております。

（岡山県 50代男性）

● 35年ぶりです。退職したら、斜里町に木を植えるのが夢です。

（福岡県 女性）

● 自然の中に生かされている人間です。「死んだら土になる」が好きな言葉です。

（宮城県 女性）

● ふるさと納税本来の姿だと思います。とてもスバラシイです。

（東京都 50代女性）

● 主人の遺志を継いで送金しています。

（徳島県 60代女性）

● 昨夏息子のドライブで孫達と共に知床五湖を歩き、はじめて（30年ぶり）に知床100平方メートルの看板をみて感無量でした。孫はその風景を絵にして（中2）全国書画展に入賞しました。又、新しい取り組みをはじめられたこと、私達老人ですが少々応援させてもらいます。

（埼玉県 男性）

● 20年ほど前、知床を旅行し、すばらしい自然に感動し、微力ながら寄付させていただいております。知床の森作りに携わる役場の方を、そしてボランティアの方々に感謝しております。かけがえのない自然がいつまでも守られますよう祈っております。

（千葉県 女性）

● こういった活動をしていらっしゃる自治体があることは本当に嬉しいです。地元の自治体はどんどん自然破壊するばかり。未来の子供たち、動物達に自然を残していくことが今生きている我々の一番大切なことだと思っています。自然破壊が続けば生きていくことは出来ませんから。少しでもお役に立てれば幸いです。

（群馬県 女性）

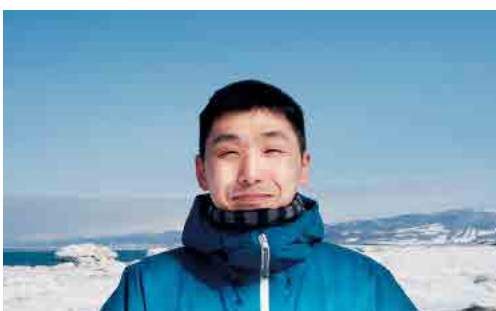
● 88歳と77歳の老夫婦です。知床を訪れた時進んで運動に賛同しました。永い間自然を守る運動と苦労様です。今年も生きて寄付する喜びを実感しています。

（大阪府 80代男性）

● 最初の参加から30年余年、その頃植樹された樹々は森になっているのでしょうか。

（東京都 70代男性）

ここでは載せきれない程たくさんメッセージをいただきました！



斜里町役場 環境課で自然環境係長を務めています玉置です。

日頃から、運動に対するご支援とご協力を頂き、ありがとうございます。

しれとこ100平方メートル運動は、100年先、200年先の森の姿を描くスケールの大きな取り組みです。生い茂る森林の中を動物たちが闊歩するしれとこの森の未来を、次の世代にいのちあふれる自然を繋いでいくために、これからも皆さんのお力添えが必要です。今年9月16日、40周年記念事業を開催します。40歳を迎えた『しれとこの森』でお待ちしております。



斜里町長 馬場 隆

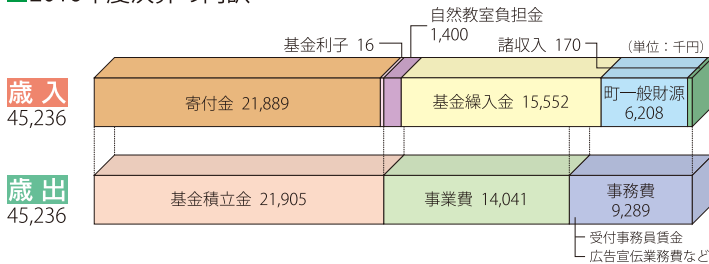
「しれとこで夢を買いませんか!」の呼びかけから40年、新運動として、運動地での本格的な森づくりを開始してから20年が経過しました。これもひとえに運動参加者の皆さまのご支援の賜物であり、心から感謝いたします。

私たちが運動を始めたときから大切にしていること、それは皆さまから頂戴している、あたたかな気持ちとともに、運動地に豊かな自然をよみがえらせることです。

100年、200年先の大きな夢の実現に向け、未来を見据えた挑戦を続けてまいります。

引き続き、皆さまのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

2016年度決算の内訳

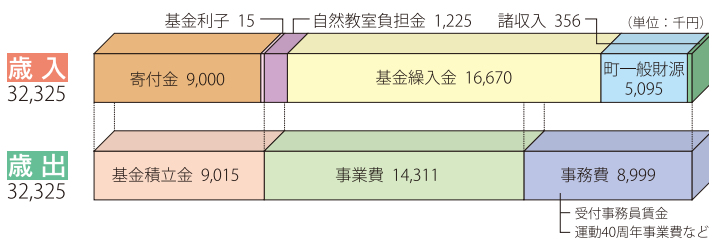


会計報告

運動の活動資金は「国立公園内森林保全基金」として斜里町が管理しており、町の一般会計と基金からの繰入金により事業を実施しています。

2016年度決算と2017年度予算の詳細については左図をご覧ください。

2017年度予算の内訳



国立公園内森林保全基金の状況

(単位: 千円) (2017年4月30日現在)

		国立公園内森林保全基金		
		2015年以前	2016年	計
歳入	寄付金	851,153	21,889	873,042
	利息	69,773	16	69,789
歳出	事業費	920,926	21,905	942,831
	事務費	731,951	12,641	744,592
残高	事業費	129,884	2,910	132,794
	事務費	861,835	15,551	877,386
				65,445

運動参加(寄付)のお願い

「100平方メートル運動の森・トラスト」は、運動参加者の皆さまからの毎年の寄付金によって支えられています。引き続き、あたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

寄付金 一口: 5,000円

寄付の方法

【郵便払込】

1. 申込書に必要事項を記入の上、郵送またはファックスで斜里町役場へ送信してください。
2. 申込書付属の払込取扱票もしくは下記口座まで寄付金をお送りください。

口座番号: 02740-8-10555

加入者名: 斜里町役場

※ 郵便局以外の金融機関からお振込みを希望される場合は、お問合せください。

【現金書留】

申込書を同封の上、現金書留を斜里町役場にお送りください。

ホームページからもお申し込みいただくことができます!



控除制度について

運動への寄付金は、所得税および住民税の控除制度（ふるさと納税）の対象となります。

- 所得税は、課税対象額から寄付控除を受けることができます。
- 住民税は課税額から寄付控除を受けることができます。
- 控除の対象となるのは、2000円を超える寄付です。

【お問合せ】

〒099-4192 北海道斜里郡斜里町本町12番地

斜里町役場 自然環境係

TEL: 0152-23-3131 (内線100)

FAX: 0152-23-4150

MAIL: 100m2@town.shari.hokkaido.jp

「100平方メートル運動の森・トラスト」ホームページ

<http://100m2.shiretoko.or.jp/>

2017年度

しれとこの森づくりカレンダー

● 週末ボランティア募集

○ 参加者募集イベント

2017年 5月							6月							7月							8月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4								①	2			①	②	③	④	⑤	6
8	9	10	11	⑫	⑬	⑭	5	6	7	8	9	⑩	⑪	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	⑪	⑫	⑬
⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	12	13	14	15	16	⑰	⑱	10	11	12	13	14	⑮	⑯	14	15	16	17	18	⑰	⑲
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
29	30	31					26	27	28	29	⑳			24	25	26	27	28	29	⑳	28	29	30	31			

9月							10月							2018年 1月							2月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3						1		1	2	3	4	5	6	7				1	2	③	④
4	5	6	7	8	9	⑩	2	3	4	5	6	7	8	8	9	10	11	12	⑬	⑭	5	6	7	8	9	⑩	⑪
11	12	13	⑭	⑮	⑯	⑰	9	10	11	12	⑬	⑭	⑮	15	16	17	18	19	⑳	㉑	12	13	14	15	16	⑰	⑱
18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	22	23	24	25	26	⑳	㉑	19	20	21	22	23	24	25
25	26	27	28	29	30		23	24	25	26	27	28	29	29	30	31					26	27	28				

11月							12月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							
⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭							
⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑							
㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘							
㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟							

※12月と3月はボランティア&イベントの募集はありません

森づくりボランティア&イベント参加者募集中！

知床の森づくりには皆様の力が必要です！皆様のご参加お待ちしております。

第18回しれとこの森づくりの日・春

- 日程：5月12日(金)～16日(火)4泊5日
- 対象：18歳以上
- 定員：12名(先着順)
- 参加費：16,000円(宿泊費・食費・保険料等込み)
- 申込：5月1日(月)まで



第38回知床自然教室

- 日程：7月30日(日)～8月5日(土)6泊7日
- 対象：小学校4年生～高校3年生
- 定員：40名(先着順)
- 参加費：35,000円(別途、現地までの交通費)
- 申込：7月3日(月)まで

しれとこの100平方メートル運動 40周年記念事業
第21回しれとこの森の集い(植樹祭)

- 日程
9月16日(土)…運動地散策・記念講演・交流会
9月17日(日)…植樹・運動地バスツアー
- 参加費：無料
- ※参加の申し込みは 斜里町役場 環境課 自然環境係まで
詳細は9ページに掲載
TEL:0152-23-3131(内 125) FAX:0152-23-4150



第21回森づくりワークキャンプ

- 日程：10月30日(月)～11月4日(土)5泊6日
- 対象：18歳以上
- 定員：15名(先着順)
- 参加費：18,000円(宿泊費・食費・保険料等込み)
- 申込：10月16日(月)まで

森づくり週末
ボランティア

- 日程：上記カレンダー参照
- 集合・解散場所：知床自然センター
- 集合・解散時間：9時頃集合・16～17頃解散
- 活動内容：5月・10月…苗畑作業(苗の床替え・移植など)
：6月・7月…苗畑作業(除草など)
：1月・2月…スノーシューコース設置など



ボランティア・イベントの参加申込み・お問い合わせはこちらまで。

詳しくは100平方メートル運動HPで

「公益財団法人知床財団 自然復元係」

しれとこ 100 ▶ で検索！

TEL: 0152-24-2114 MAIL: info@shiretoko.or.jp

編集：公益財団法人 知床財団 印刷：有限会社 斜里印刷